

布引だより



令和3年3月15日

No. 1 4

一人ひとりがキラリ輝く布引の子

HP <http://www2.higashiomi.ed.jp/nunosyo/>

「一年生じゃなくて良かった！」

いよいよ今週末、本校第42回卒業式が挙行されます。
6年生のみなさん、保護者のみなさん、誠におめでとうございます。
いろんな場で何回も伝えていますが、今年度の6年生も布小自慢の子どもたちでした。エピソードをひとつ記します。



本校の屋根のひさしには、たくさんのツバメの巣があります。
毎年あたたかくなると帰ってきて、せっせとつがいで巣の増改築をはじめ、雛を育てています。
鳥インフルエンザのこともあり、衛生面・管理面から決してよくはないのですが、里帰りするツバメのことや子どもたちの「帰ってきた～」と喜ぶ歓声を聞くと、どうしても撤去にふみきれないのです。保護者からの要望もあり、コロナ禍でこまめな換気が必要になったことから、教室の網戸設置を市にお願いし、なんとか巣を残してやりたいと考えています。

サルも出没するそんな自然豊かな本校ですが、鳥は容赦なく子どもに近づいてきます。

先週のある朝、6年生の登校班長が職員室にやってきて、「先生、ランリュックに鳥のフンをかけられました。」見ると5cm平方ほどの真っ白なムクドリらしき鳥のフンがついていました。「今日はウンがあるなあ。」ととぼける校長を横目に、養護教諭の石塚先生が、右の写真のように6年間お世話になったランリュックの洗濯と消毒をしてくださいました。



教室へ戻り、未来ヶ丘の登校班長のつぶやいた言葉が「(フンをかけられたのが) 一年生じゃなくて良かった！」です。

まだ1年生のランリュックは新しいからと思ったのか、大泣きするからと思ったのか、こんな6年生の美しい言葉に思わず胸が熱くなりました。

6年間ありがとう

本校職員は、この6年生たちに地域の将来を、そして国の未来を託せると胸をはって中学校へ送り出します。

今年も全校のみなで作りました！

布小わくわくカレンダー

本校では、毎年、特別支援教育理解の一環として、[布小わくわくカレンダー] を次の2つのことをねらいとして作成しています。

- ①特別支援学級(そよかぜ・わかば)在籍児童と通常学級の児童がふれあい、ともに協働することによって互いに理解しようとする態度を育てる。
- ②地域社会の人にこの活動を知っていただき、ふれあう機会とする。

このほど、今年の[布小わくわくカレンダー]が完成しました。

自分の描いた挿絵が入ったカレンダーを見つけて嬉しそうにしている子らの様子が印象的でした。カレンダーは、校内の各教室や特別教室等の他、地域の公共機関に届け、掲示していただいています。

全校のみんなの思いが詰まったカレンダーは、一人ひとりの作品が生かされ、誰もが大事にされるといふ～一人ひとりがキラリ輝く布引の子～の学校教育目標にもつながっており、布小ならではの伝統ある取組のひとつです。



「みなさん、ご協力ありがとうございました！」